

第 10 節 特筆すべき植物

第 1 項 活着確認調査

1 - 1 調査年月日及び調査内容

移植を行った種について、移植後 6 ヶ月、1 年後に活着の状況を調査した。

調査内容及び調査年月日は表 4 - 10 - 1 に示したとおりである。

なお、カラタチバナ、ササユリ、ギンランの移植 6 ヶ月後の調査結果については、昨年度（平成 21 年度）に既に報告済みである。

また、下記以降の調査（移植 3 年後、5 年後）については、次年度以降に実施する。

表 4 - 10 - 1 調査内容及び調査年月日

種 名	調査内容及び調査年月日	
	移植 6 ヶ月後 活着確認	移植 1 年後 活着確認
ミズワラビ	平成 22 年 4 月 28 日	平成 22 年 10 月 12 日
ミズマツバ	平成 22 年 4 月 28 日	平成 22 年 10 月 12 日
カラタチバナ	（平成 21 年度に実施済み）	平成 22 年 6 月 3 日
シソクサ	平成 22 年 4 月 28 日	平成 22 年 10 月 12 日
ササユリ	（平成 21 年度に実施済み）	平成 22 年 6 月 3 日
ギンラン	（平成 21 年度に実施済み）	平成 22 年 6 月 3 日
アキザキヤツシロラン	平成 22 年 4 月 28 日	平成 22 年 10 月 12 日

1 - 2 調査地点及び調査方法

調査は図 4 - 10 - 1 に示した最終処分場工事区域内の移植先で実施したが、具体的な調査地点については、盗掘等を防ぐため掲載を控えた。

なお、調査方法は各移植地において、対象種の生育状況を観察し、記録した。

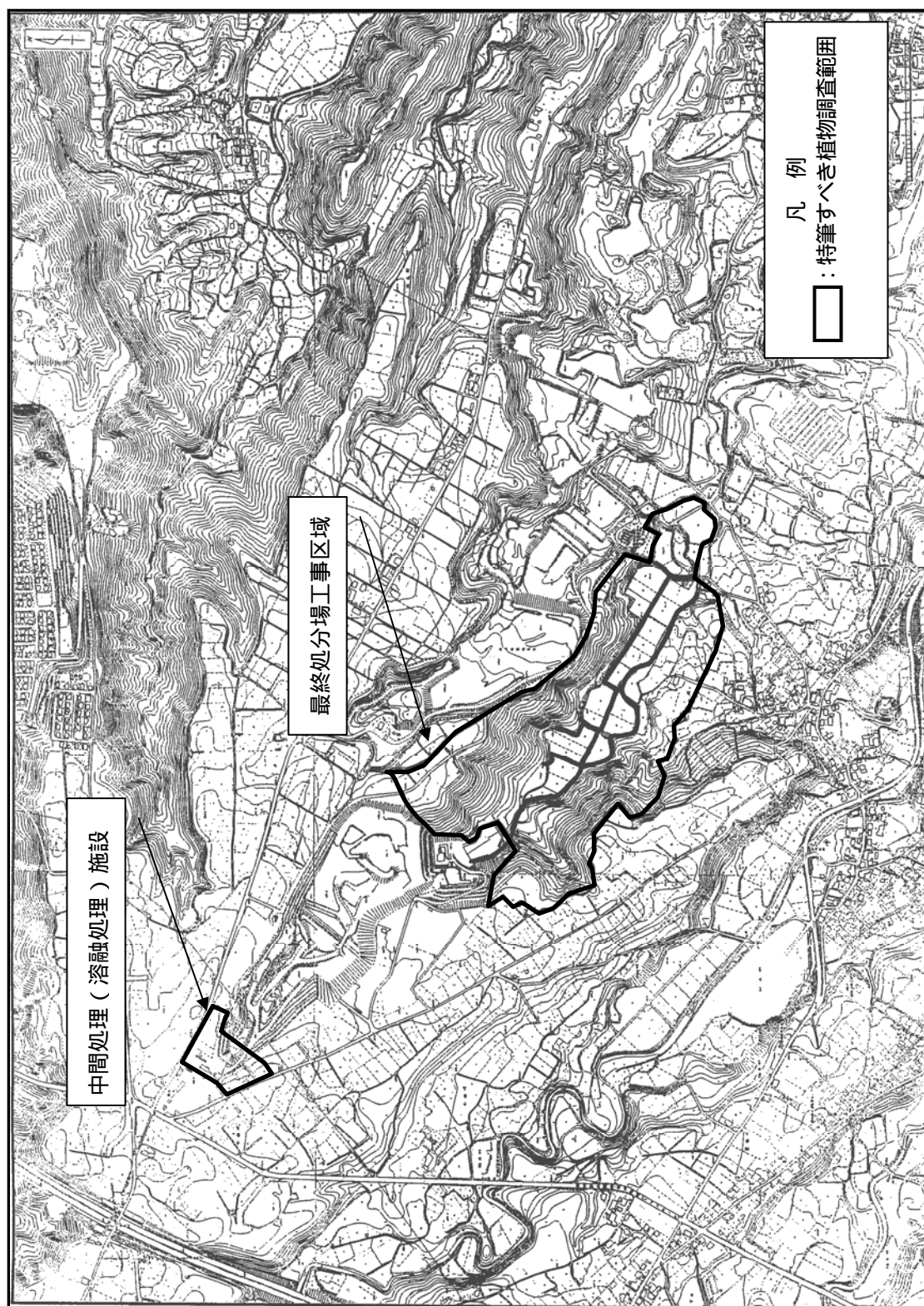


図 4 - 10 - 1 特筆すべき植物調査範囲

1 - 3 調査結果

移植を行った種の移植後 6 ヶ月、1 年後の活着の状況は表 4 - 10 - 2 に示したとおりである。ミズワラビについては、今回移植 6 ヶ月後、1 年後の調査とも確認できなかったが、本種の仮移植地では、地表をはうようにして広がるイボクサが繁茂しており、このため、本種が生育できなかったと考えられる。しかしながら、本種の胞子は土中に存在しているものと考えられ、現在の仮移植から今後本移植を実施し、生育条件を整えば、生育が確認できるものと考えられる。

ミズマツバについては、今回の移植 6 ヶ月後の調査では確認できなかったが、1 年後の調査では 11 個体を確認した。移植個体数からは確認数が少ないが、ミズワラビと同様、現在の仮移植から今後本移植を実施し、生育条件を整えば、生育が確認できるものと考えられる。

カラタチバナについては、移植 6 ヶ月後まで全ての個体が良好な状態で生育していたが、今回の移植 1 年後調査では移植地 B の 5 個体全てが消失していた。これについては、枯死した痕跡がみられなかったことから、採取された可能性が考えられる。

シソクサについては、今回の移植 6 ヶ月後の調査では確認できなかったが、1 年後の調査で 36 個体を確認した。移植個体数からは確認数が少ないが、ミズワラビと同様、現在の仮移植から今後本移植を実施し、生育条件を整えば、生育が確認できるものと考えられる。

ササユリについては、移植時は 2 個体であったが、移植 3 ヶ月後以降、今回の 1 年後の調査でも確認できなかった。移植した 2 個体がいずれも本種としては開花しない程度の小さな個体であると考えられるが、球根は残っているものと考えられ、数年は発芽と、枯れや動物による捕食等を繰り返し、少しずつ生長がみられるものと考えられる。

ギンランについては、今回の 1 年後の調査で移植地 A は 2 個体、移植地 B は 5 個体を確認した。

アキザキヤツシロランについては、今回の移植 6 ヶ月後の調査では確認できなかったが、1 年後の調査で 1 個体（移植地 B）を確認した。昨年度と同じ時期に調査を実施しているが、昨年度は結実の状態を、今回は開花直後の状態の確認であった。

表 4 - 10 - 2 調査結果

種 名	調査結果	
	移植 6 ヶ月後 活着確認	移植 1 年後 活着確認
ミズワラビ	確認できず	確認できず
ミズマツバ	確認できず	11 個体の生育を確認
カラタチバナ	平成 21 年度に報告済み	3 個体の生育を確認
シソクサ	確認できず	36 個体の生育を確認
ササユリ	平成 21 年度に報告済み	確認できず
ギンラン	平成 21 年度に報告済み	7 個体の生育を確認
アキザキヤツシロラン	確認できず	1 個体の生育を確認

第 2 項 再確認調査

1 - 1 調査年月日及び調査内容

昨年度(平成 21 年度)調査において残存緑地予定区域及び最終処分場工事区域外で確認したムヨウラン属の一種、イシモチソウ、ヒメコヌカグサの 3 種について、確認地点において再確認調査を実施するとともに、昨年度確認できなかったアギナシ、イトモ、ホシクサの 3 種について、再度確認調査を行った。

調査年月日及び調査内容は、表 4 - 10 - 3 に示したとおりである。

表 4 - 10 - 3 調査年月日及び調査内容

調査対象種	調査年月日	調査内容
ムヨウラン属の一種 イシモチソウ ヒメコヌカグサ	平成 22 年 6 月 3 日	最終処分場工事区域内の残存 緑地及び区域外における再確 認調査
アギナシ	平成 22 年 8 月 26 日	
イトモ	平成 22 年 6 月 3 日 平成 22 年 8 月 26 日	
ホシクサ	平成 22 年 8 月 26 日	

1 - 2 調査範囲

調査範囲は前掲の図 4 - 10 - 1 に示した、最終処分場工事区域及びその周辺で実施した。

1 - 3 調査方法

調査は、評価書の現況調査及び昨年度の調査で生育を確認した地点を中心に、任意に踏査し、対象種を確認した。

1 - 4 調査結果

調査の結果、表 4 - 10 - 4 に示したとおり対象 6 種のうち、ムヨウラン属の一種、イシモチソウ、ヒメコヌカグサの 3 種を確認した。

確認位置については、盗掘等を防ぐため掲載を控えた。

表 4 - 10 - 4 特筆すべき植物確認状況

種 名	調査結果
ムヨウラン属の一種	最終処分場工事区域内の残存緑地予定区域の 1 地点 で合計 2 個体確認 生育状況から「ウスギムヨウラン」であると判明
イシモチソウ	最終処分場工事区域外の 1 地点で合計 15 個体確認
ヒメコヌカグサ	最終処分場工事区域外の 1 地点で合計 10 個体確認
アギナシ	確認できず
イトモ	確認できず
ホシクサ	確認できず